

医師は語る



医療法人社団 健翔会
堀口医院医師 堀口 裕

病気のはじまりは血行障害

春を迎え、ぽかぽかの陽気に気分も晴れやかになります。特に重い病気にかかっている方は「体の冷え」が大敵ですので、これからが病気の改善にいい季節です。しかし春先は寒暖の差が大きく、また花粉や粉塵（ふんじん）が舞って体調が落ち着きません。体調管理に大変ですが、もうひと頑張りしましょう。

さて寒い時の体調管理には、ちよつと厚着をしたりカイロを貼ったり、あるいは入浴で肩口まで浸かったり、体のマッサージをするのも効果的です。時に最近話題の生姜（しょうが）や漢方薬も良いです。どれも体の血液循環を良くしてくれます。私は極寒の地、網走（あばしり）で生まれましたが、母がしきりに、子供たちの体の冷えを心配していました。冬は常に霧下の外を、あたりが見えなくなるまで雪の中で遊んでいましたから、そう言われるのも当たり前です。家路に着くころは、毛糸の帽子と手袋はいつも氷柱（つらら）で覆われていました。

ようやく私にも分かったのですが、

「病気のはじまり」は必ず血行障害だったのです。私の口癖である「人の体は細胞でできている」は、細胞の病気が、すなわち人の病気であることを意味し、だから細胞が元気なら人の体も元気ですと申し上げたいのです。細胞が生きたために一番大切なことが、血液循環の良さです。良好な血液循環が細胞が生きたための栄養素も酸素もお水も運んでくれます。血液循環の悪いところは、必ず細胞は病気になるか死滅してしまいます。たびたびご紹介しております細胞の元気を調べる「細胞内検査」には、細胞レベルの血液循環を評価する項目がありますが、冬場はとも悪くなっています。冬場はどこも救急車の往来が多くなりますが、これで冬場の病状の悪化が説明できます。もう六、七年前になりますが、堀口医院のスタッフの方に協力して頂き、夏場と冬場で細胞内検査結果にどれだけの違いがあるかを調べたことがあります。同じスタッフのメンバーですが、夏場は平均22点（35点満点）であったのに対し、冬場は18点でした。既に重い病気をお持ちの患者さんともなれば、冬場に10点から14点の点数しかとれていません。その原因のほとんどが末梢の血行障害にあります。

血行障害は自律神経の乱れ

それでは血行障害の原因は、寒さだけでしょうか？ もし冬の寒さだけなら病気の悪化は冬だけになります。ところが一年中血行障害に陥っている方も随分おられます。これは一体どうい

うことでしょうか。実は春先もそうですが、自律神経の乱れが慢性的な血行障害の切っ掛けになっています。大きな寒暖の差は、自律神経の調節が上手くいかなくなり、血管の収縮を起こして血圧の上昇や心臓の収縮リズムを乱して動悸や不整脈、そして眩暈（めまい）や気分の落ち着かない感じがでてしまいます。自律神経の不調による血行障害は、全身の筋肉に酸素を運搬できなくなることを意味します。そして筋肉の酸素欠乏状態は、筋肉細胞に乳酸やビルビン酸が蓄積して筋肉の硬直を起こします。硬くなった筋肉は血管を圧迫しますので、ますます血行障害が酷くなってしまいます。春先は寒暖の差によって、冬場は寒さのみならず空気の乾燥による静電気帯電によって、また一年中電磁波や大気汚染物質に囲まれた環境によって、極めつけは心身のストレスと過労によって自律神経が乱れ続け、私たちの体はいつも血行が悪くなっています。そのため細胞は常に病気の危機に瀕しています。

還元電子治療で自律神経を整える

しかし、自律神経の乱れを治し、常に血行を良好に保つことは容易なことではありません。私は二〇年間に亘り、細胞をピカピカに手入れする方法として「還元電子治療」を手がけてきました。この治療は決して病気を直に治す方法ではありません。風邪を引けば風邪症状のお薬を、血圧が高ければ降圧剤を、不整脈があれば脈を整えるお薬を使うべきです。ただ病気が起こる現

場は、常に細胞です。細胞の手入れを怠れば、必ず病気に発展します。体の細胞を磨くために私は「還元電子治療」をつくりました。ところで自律神経は何者ですか？

自律神経もまた自律神経細胞、つまり「細胞」そのものです。ですから自律神経の乱れを治し、末梢の血行を常に良くするために還元電子治療をあてがって下さい。二〇年間の研究から、特段の副作用も認めず、これほど最適な治療法はないと思います。春の時候は自律神経の大きな乱れから、気分も大きく動揺します。いつもと変わらな生活なのにとっても体が疲れてしまうのは、自律神経系のバランスの悪さによるものです。病気のある方も無い方も、この時期しっかりと還元電子治療を利用してしまおう。細胞が元気になって、体が健康になれたなら、きっと誰もが幸せになれるに違いありません。

【堀口裕先生プロフィール】

北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会 堀口医院を開院。現在堀口医院理事長兼院長を務める。世界で初めて細胞の中を調べる「細胞内検査」を独自に考案され、世界各国で特許を取得。またその細胞のコンディションを取り戻すための「還元電子治療」を独自に開発。二〇一一年五月、世界中の医学学会連合会、自然療法研究専門委員会、副会長に就任。現在は、病気の根を調べる「自己防御力診断」と病気の根を治療する「還元電子治療」を駆使し、全国で一万六千人以上の患者の治療に取り組み傍ら、根元（ねもと）の医療と呼ばれる新しい医療を推進し、全国で講演活動を行っている。